

フィプロニル粒剤 プリンス粒剤	取扱メーカー： 日産，北興 原体メーカー： B A S F
成分： フィプロニル〔フェニルピラゾール系 PRTR・1種〕…1.0%	性状： 類白色細粒 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】

●特異な作用性を持ち，これまでの殺虫剤に抵抗性の発達した害虫にも優れた効果を示す。

●水稻育苗箱処理及びセル成型苗用育苗トレイ処理専用。

●多くの主要な水稻害虫に育苗箱施用で優れた効果を発揮する。

●キャベツ，ブロッコリーのハイマダラノメイガにセル苗は種時処理で優れた効果を発揮する。

●有効成分投下量は極めて低量である（水稻：1 ha 当り 100 g，キャベツ：1 ha 当り 150 g）。

●水稻育苗箱施用はクモ類，アメンボ，寄生蜂などに対し影響の少ないことが確認されている。

●水稻の初中期害虫に対して45～60日間の残効が期待できる。このため，確実に省力的な防除が可能となる。但し，残効期間は害虫の発生時期，地域によっても異なるので注意が必要である。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】

●水稻の育苗箱の上から均一に散布し，葉に付着した薬剤を払い落とし，軽く散水した後，田植機にかけて移植する。

●水稻の床土混和处理はは種前に床土に育苗箱1箱当りの処理薬量が50 g となるように均一に混和し，処理床土を育苗箱に詰めは種後覆土する。

●水稻のは種時処理は，は種・灌水後，育苗箱1箱当り50 g を均一に散布した後，覆土する。

【薬効・薬害等の注意】

●薬害に関しては，あらかじめ安全性の確認されている床土を使用する。

●水稻のは種時処理及び床土混和处理の場合，低温で生育抑制を生じるおそれがあるので，温度管理に注意する。

●適用作物（稲）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】

●魚類，甲殻類に影響を及ぼすので，使用時並びに使用後も注意。

●散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



【適用と使用法】

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フィプロニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウンカ類 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ イネツトムシ ニカメイチュウ イナゴ類 イネヒメハモグリバエ コブノメイガ	育苗箱 (30×60× 3cm, 使用土 壌約5ℓ) 1箱当り 50g	は種前	1回	育苗箱の床土に 均一に混和す る。	1回
	ウンカ類 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ イネツトムシ ニカメイチュウ イナゴ類 イネヒメハモグリバエ コブノメイガ フタオビコヤガ イネクロカメムシ		は種時 (覆土前) ～移植当日		育苗箱の上から 均一に散布す る。	
	イネシンガレセンチュウ		は種時 (覆土前)			
	イネアザミウマ		移植3日前～ 移植当日			
	イネカラバエ		移植当日			
キャベツ	ハイマダラノメイガ コナガ	セル成型育苗 トレイ1箱又 はペーパー ポット1冊 (30×60cm, 使用土壌約 3～4ℓ) 当 り 20～30g	は種前	1回	本剤の所定量を セル成型育苗ト レイ又はペー パーポットの床 土に均一に混和 する。	3回以内 (定植前の 処理は1回 以内, 定植 後の散布は 2回以内)
			は種時		本剤の所定量を セル成型育苗ト レイ又はペー パーポットの覆 土に均一に混和 する。	
			は種時～ 定植前		本剤の所定量を セル成型育苗ト レイ又はペー パーポットの上 から均一に散布 する。	
	ハイマダラノメイガ	0.2g/株 (但し, 50g/㎡まで)	地床育苗期		株元散布	

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	フィプロニルを含む 農薬の総使用回数
ブロッコリー	ハイマダラノメイガ	セル成型育苗トレイ1箱 又はペーパーポット1冊 (30×60cm, 使用土壌約 3～4ℓ) 当 り20～30g	は種前	1回	本剤の所定量をセル成型育苗トレイ又はペーパーポットの床土に均一に混和する。	3回以内 (定植前の 処理は1回 以内、定植 後の散布は 2回以内)
			は種時		本剤の所定量をセル成型育苗トレイ又はペーパーポットの覆土に均一に混和する。	
			は種時～ 定植前		本剤の所定量をセル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から均一に散布する。	
き　　く	アザミウマ類	6 kg／10a	定植前		植溝土壌混和	5回以内